# 甲府城の正面はどちらか

NPO 法人 文化財保存技術ネットワーク・ユアプレーン会員　宮里　学

## １．はじめに

大手（追手）門と搦手門は、呼称は様々あるとしても城郭施設として存在しない近世城郭は一般的にはない。

特に大手は、城郭の正面性を表す用語であり、櫓門や付随する門、石垣と合わせ虎口を形成し、軍事施設でありながら格式ある場所でもある。

甲府城の大手門は、山梨県庁東門から櫓門の礎石が検出されており、その南側のスクランブル交差点に堀と木橋が存在していたと想定される。

搦手門は、山手門と甲府城では表現される。場所は、甲府市が平成 19 年に整備したので視覚的にわかりやすく、山梨文化会館（山日本社）の南側にある。

大手門と山手門。この二つの門が甲府城の正面と背面を構成している。では、西と東はどうなっているのか。

西は、県庁西門付近に柳門があったことが資料と発掘調査で確認されている。東には門の遺構や存在を示す資料はなく、むしろ我々の認識外の幻の門があったのではないかという七不思議めいた話がある。

このような概観があって甲府城は南が正面、北は搦手。西の柳門は平時おいての主要な門という位置付けや方向付けという暗黙の了解ができたが、改めて甲府城の正面について整理しておきたい。

## ２．甲府城の輪郭を掴む（アウトライン）

○凸が 90 度右回転
○東側の突起部が旧山体
○西側の長方形が平地部（山麓部）

## ３．甲府城の空間構成と西側の正面性

○旧山体の山頂部に向かい３ないしは４段構成（梯郭）
○旧山体は戦闘的要素（東に向かう縦深）
○平地部を活かした単純広域空間（初期）と政庁的利用（柳沢期）への変化
○旧山体と平坦部の三重櫓（初期）を軸とした防御機能の変化

## ４．悩ましい資料

○「楽只堂年録」第 173 巻（1705 年）
　→資料は、柳沢吉保に関する藩政記録と有名

一　甲府城能内外所々の名を改む或ハ元の名を用ひ或ハ新構ふ名つくるもあり
一　鉄門元ハ南門　銅門元ハ西門　天守曲輪門元ハ稲荷曲輪四足門
天守曲輪元ハ東帯曲輪　中之門元ハ武具蔵前矢来門
帯曲輪門新規　松陰之元ハ長番所前門　屋形曲輪門元ハ埋門
梅林門元ハ長番所後四足門　中之門元ハ水之手江出口四足門
清水曲輪新規　竹林門新規　稲荷曲輪門元ハ鍛冶曲輪出口四足門
数寄屋曲輪元ハ隠居曲輪　数寄屋門勝手門元ハ隠居曲輪入口四足門
数寄屋門元ハ隠居西門　鍛冶曲輪門元ハ蔵前四足門　台所門新規
坂下門元ハ台所前四足門 楽屋曲輪新規　大広間門新規　長屋門新規
追手門元ハ南追手　柳門元ハ西追手　山之手門元ハ水之手門　花畑新規

## 5．東側の高石垣と防御性

○現存国内最大級の野面積み石垣と防御性（縦深）
○江戸時代初期の絵図に描かれる多門櫓（稲荷曲輪の東縁）の存在
○江戸中期以降も継続する防御性（稲荷櫓、数奇屋櫓、武具土蔵、塀）

## 6．まとめ（西側正面を証明するウィークポイント）

○江戸初期の資料には、西側正面を決定付ける記述等の根拠がない
　→上記４の資料のみ
○江戸初期の絵図では「西大手」に連続する南側が土手
　→西側の防御性あるいは城郭としての象徴性が低い
○空間を構成に対する自然受容の解明
　→軍学＜自然地形　地盤

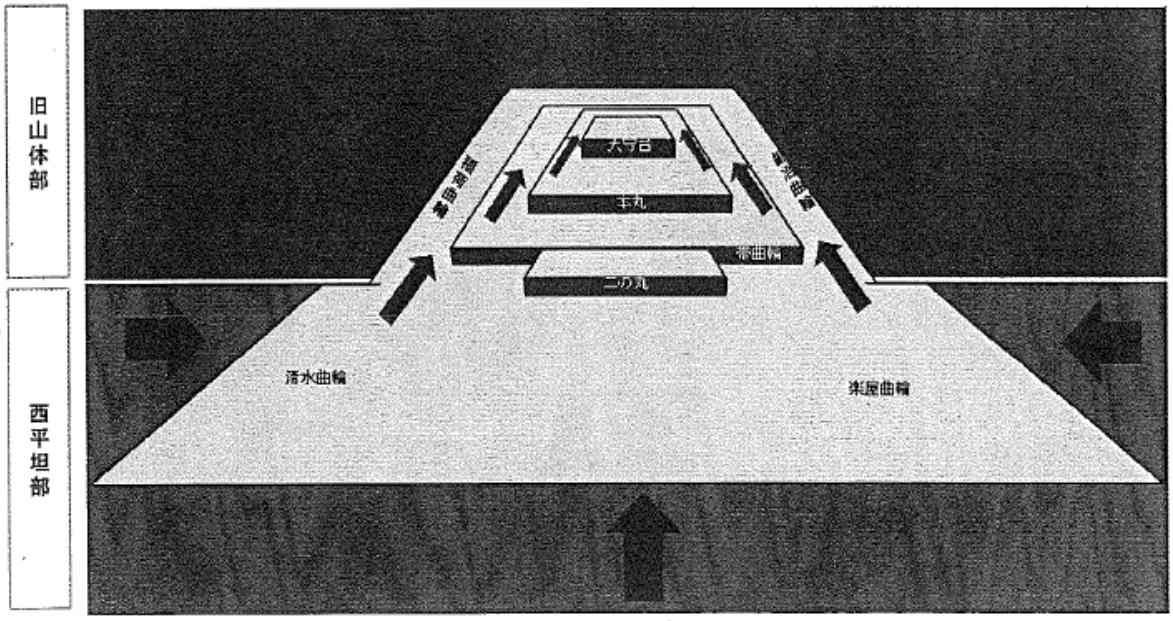


図１　西から俯瞰した空間構成

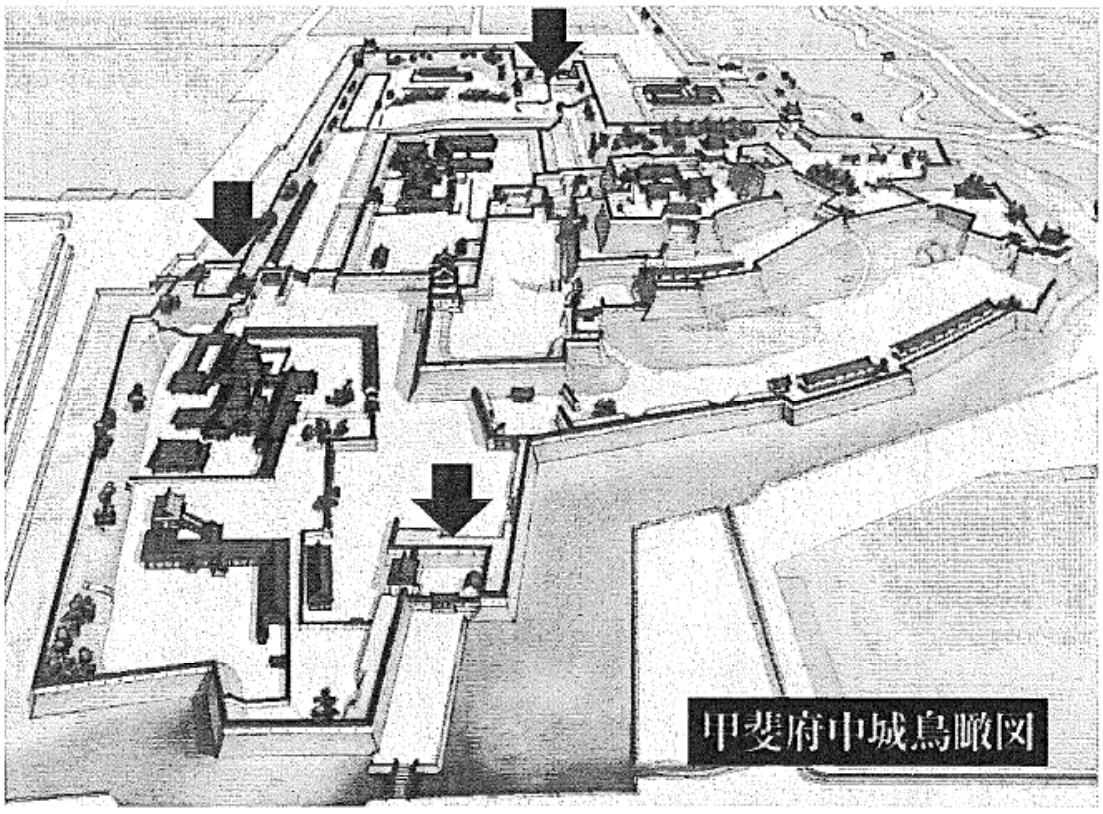


図２　南側鳥瞰図（柳沢時代）　一般的な甲府城説明資料

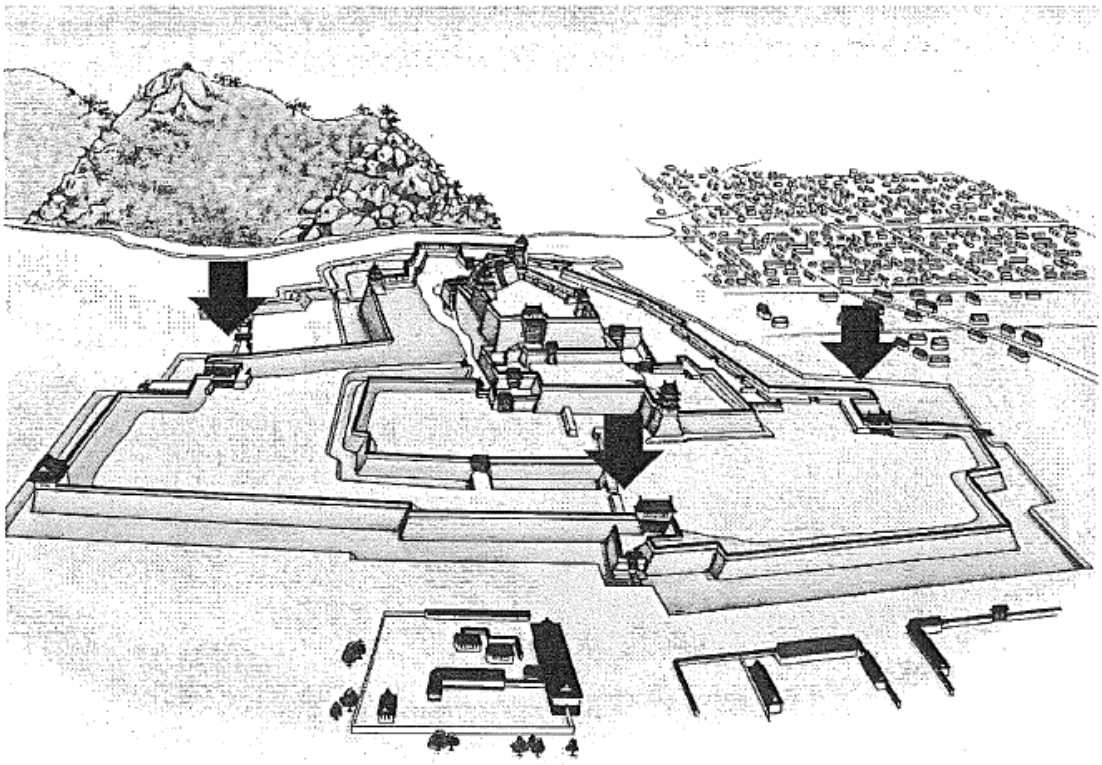

図３　西側鳥瞰図

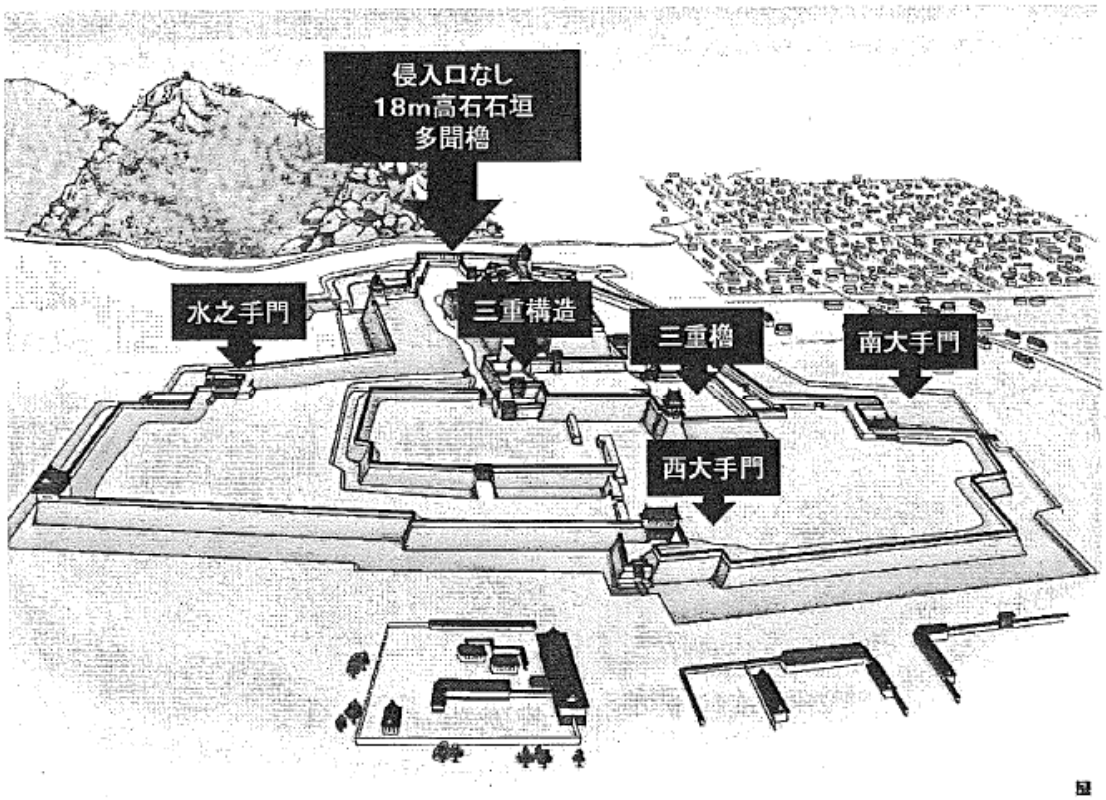


図４　西側を正面としたときの城内空間構成

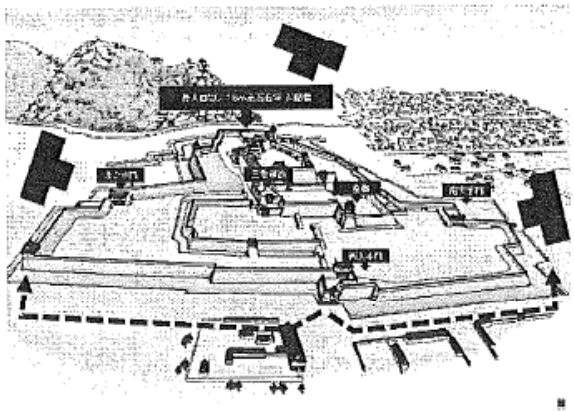

図５　西側を正面としたときの外圧

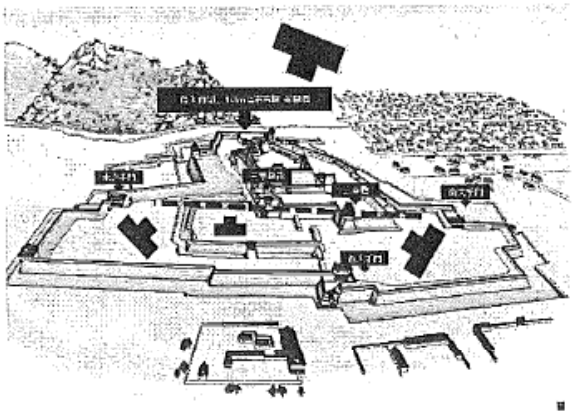

図６　外圧を受け入れたときの城内機能